

# ドイツ左翼党

## —政党政治再編成の中での新たな役割—

小野 一

工学院大学教授

ドイツ左翼党<sup>1</sup>は、時代とともに役割を変化させている。左翼空間再編成の中で、エリート中心の欧州政治や、グローバル資本主義へのオルタナティブとなり得るだろうか。

### 旧東ドイツに根ざした抗議政党 (1990～2005年)

左翼党の前身をなす民主社会党(PDS)は、ドイツ再統一(1990年)後に、旧東ドイツの社会主義統一党を母胎として誕生した。過去の遺産をどこまで清算したのかは、意見が分かれる。旧西ドイツでは拒絶感が強く、早晚消え去ると思われたPDSが存続し得た要因は、ギジ党首の才覚もさることながら、東西ドイツの経済格差に求められよう。

1998年連邦議会選挙で、シュレーダーを首相とする赤緑連立政権(社会民主党+緑の党)が成立する。この政権ほど、激動の国際情勢に翻弄されたものも珍しい。コソボ紛争(1999年)では、PDSはユー

ゴ空爆反対を貫く。2001年10月のベルリン選挙で22.6%を得たのは(西ベルリンでは6.2%)、アフガン派兵に反対するPDSに、緑の党から票が流れたためといわれる。PDS排除の論調は、少しずつだが変わり始めていた。

その後、新自由主義に傾斜する社会民主党から離反した西側の組織労働者を中心に、選挙オルタナティブ・雇用と社会的公正(WASG)が立ち上げられる。蔵相を辞任したラフォンテーヌも加わり、「左翼党/民主社会党」の統一候補者名簿を掲げて2005年連邦議会選挙に臨んだ。

### 五党制時代(2006～2017年)の 政党連立

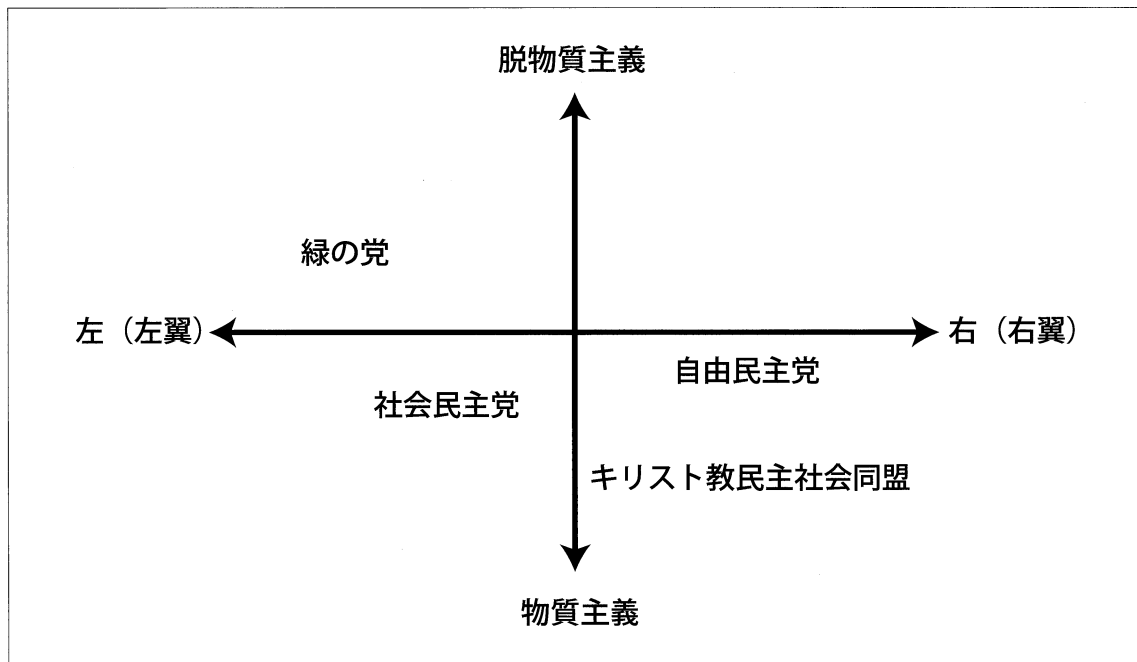
こうして左翼党(2007年以降の名称)は、政党システムに定着した。2005年連邦議会選挙では、中道保守(キリスト教民主社会同盟+自由民主党)も赤緑連立も過半数を制し得ない議席配分となった。例外的とされてきた大連立が頻出すること自体<sup>2</sup>、ドイツ政治の構造変化を示唆する。そのような中、左翼党がプレゼンスを高めてくる。

図1は、緑の党出現以来の政党間関係を説明するモデルである。中道保守政権への対案として、赤緑連立が自明の解とは限らない。経済的豊かさや身体的安全を重視する物質主義に対し、生活の質、倫理・道徳、自己実現などを特徴とするのが脱物質主義である。高学歴の新中間層で支持が強い

#### おの はじめ

1965年生。一橋大学社会学研究科博士後期課程単位修得退学。修士(法学)。専門は現代ドイツ政治学。現在、工学院大学教育推進機構教授。

著書に、『ドイツにおける「赤と緑」の実験』(御茶の水書房、2009年)、『緑の党/運動、思想、政党の歴史』(講談社、2014年)、『地方自治と脱原発/若狭湾の地域経済をめぐって』(社会評論社、2016年)など。



出所：筆者作成。

緑の党は脱物質主義、労働者階級を支持基盤とする社会民主党は物質主義的傾向を示す。この対抗軸上では、両左翼政党の隔たりはかなり大きい。社会民主主義の主流派が緑の党との協働を忌避すれば、大連立が選好される。

左翼党は、成立の経緯からして物質主義的傾向が強い。3つの左翼政党の連立（赤赤緑連立）もありそうだが、実際には、この型の連立政権はほとんど例がない。

西側でも実現の一步(?) 手前まで行ったことはある。2008年ヘッセン州議会選挙後、社会民主党のユブシランティは、左翼党の協力を得て州首相に立候補しようとした。公約違反のそしりを受けて挫折すると、彼女は「連帯的近代のための機構」の活動に傾注する。2009年ザールラント州議会選挙では、連立政権の可能性は、赤赤緑連立かジャマイカ連立<sup>3</sup>かに絞られた。キャスティングボートを握る同州緑の党は、後者を選択した。

キリスト教民主社会同盟と緑の党との連立（黒緑連立）は、以前ならあり得ない組み合わせだったが、一部の州では現実のものとなっている。福島原発事故後の政策転換により「脱原発全党コンセンサス」が成立したことは、保革ブロックを分かつ最後

の主要な対立軸（エコロジー政策）における収斂を印象づける（小野 2015）。外交・安全保障政策上の左翼党の平和主義は際立っているが、ドイツ政治の中心的イシューにはなりにくい。

旧東ドイツの一部で赤赤連立（社会民主党+左翼党）の実績があることを除けば、左翼党は依然として政権構想から除外されている。だが、政党政治の分析では、連立戦術のみならず、政綱プログラムへの注目も重要である。

### 党内諸潮流と基本綱領

左翼党はどのような政治を目指すのか。この根本的な問いへの答えが、実は簡単でない。組織的にも思想的にも一枚岩でないからである。多様性は今日の一般的傾向とはいえ、老舗の政党が旧来の支持基盤を超えて大規模化（包括政党化）するのは異なる。ドイツ再統一後の特殊状況ないしは社会的価値観の変容からの帰結と考えるべきだろう。

2000年代なかばまでに明確になる政治的方向性は、3つの党内潮流<sup>4</sup>により代表される。1つめは反資本主義的左翼（AL）で、共産主義系グループやPDSの古参党員が結集する。2つめは社会

表1 ドイツ連邦議会選挙結果

選挙日時	得票率（議席数）								投票率
	CDU/CSU	SPD	FDP	緑の党	左翼党	AfD	その他	計	
1949.8.14	31.0(139)	29.2(131)	11.9(52)				27.9(80)	100.0(402)	78.5
1953.9.6	45.2(243)	28.8(151)	9.5(48)				16.7(45)	100.0(487)	86
1957.9.15	50.2(270)	31.8(169)	7.7(41)				10.4(17)	100.0(497)	87.8
1961.9.17	45.3(242)	36.2(190)	12.8(67)				5.7(0)	100.0(499)	87.7
1965.9.19	47.6(245)	39.3(202)	9.5(49)				3.6(0)	100.0(496)	86.8
1969.9.28	46.1(242)	42.7(224)	5.8(30)				5.4(0)	100.0(496)	86.7
1972.11.19	44.9(225)	45.8(230)	8.4(41)				1.0(0)	100.0(496)	91.1
1976.10.3	48.6(243)	42.6(214)	7.9(39)				0.9(0)	100.0(496)	90.7
1980.10.5	44.5(226)	42.9(218)	10.6(53)	1.5(0)			0.4(0)	100.0(497)	88.6
1983.3.6	48.8(244)	38.2(193)	7.0(34)	5.6(27)			0.4(0)	100.0(498)	89.1
1987.1.25	44.3(223)	37.0(186)	9.1(46)	8.3(42)			1.5(0)	100.0(497)	84.4
1990.12.2	43.8(319)	33.5(239)	11.0(79)	5.0(8)	2.4(17)		4.1(0)	100.0(662)	77.8
1994.10.16	41.5(294)	36.4(252)	6.9(47)	7.3(49)	4.4(30)		3.5(0)	100.0(672)	79
1998.9.27	35.1(245)	40.9(298)	6.2(43)	6.7(47)	5.1(36)		5.9(0)	100.0(669)	82.2
2002.9.22	38.5(248)	38.5(251)	7.4(47)	8.6(55)	4.0(2)		2.8(0)	100.0(603)	79.1
2005.9.18	35.2(226)	34.2(222)	9.8(61)	8.1(51)	8.7(54)		3.9(0)	100.0(614)	77.7
2009.9.27	33.8(239)	23.0(146)	14.6(93)	10.7(68)	11.9(76)		6.0(0)	100.0(622)	70.8
2013.9.22	41.5(311)	25.7(193)	4.8(0)	8.4(63)	8.6(64)	4.7 (0)	6.3(0)	100.0(631)	71.5
2017.9.24	33.0(246)	20.5(153)	10.7(80)	8.9(67)	9.2(69)	12.6(93)	5.1(1)	100.0(709)	76.2

(政党名略称) CDU/CSU キリスト教民主社会同盟 SPD 社会民主党 FDP 自由民主党 AfD ドイツのための選択旗  
PDS (2005年選挙まで)は左翼党の欄に記載

出所：筆者作成。

主義的左翼(SL)で、(西側)労働運動の中級・下級活動家の拠り所である。修正資本主義と左派ケインズ主義はWASGの主張に近く、左翼党が旧西ドイツ地域に拡張する足がかりとなる。3つめは民主的社会主義フォーラム(FdS)で、制度機構の中での政策活動を重視する。州レベルで政権参加経験のある、PDSのプラグマティストが多い。他党との連立や、民主的条件の下での欧州統合を容認する姿勢は、ALの原理主義的反対派路線とは対照的である。

多様な立場を統合し、党内対立を回避するしくみが発達した。今日の左翼党は、社会主義革命を目指す世界観政党のようなものではない。基本綱領採択までに時間がかかったのも、党内合意形成の難しさゆえだろう。

現行綱領<sup>5</sup>は、2011年秋にエアフルト党大会

で承認された。具体的な闘争課題として、「現状とは異なる民主的な経済秩序」「社会的・エコロジー的改造」「良質な労働による生存権保障のための権利」「包摂的な社会共同体」「両性間の公正な労働分担」「安心して暮らせる社会」「万人のための貧困対策としての連帯的法定年金」「連帯的・疾病・介護保険」「すべての人にアクセス可能な良質で無償の教育」「文化的多様性および文化的財産への参与」「公正な税制」「民主主義と法治国家の貫徹」「あらゆる形態の差別の克服」「欧州連合(EU)の再生」「帝国主義と戦争に反対し、平和と軍縮を支持すること」「万人の生活条件改善のための国際連帯・協働」の16項目が列挙される。

興味深いのは「学習期政党」<sup>6</sup>という自己規定である(LINKE 2012: 73)。理論的未成熟を認める謙虚さとも、広範な市民とともに学び続けるオープン

な政策形成とも、党内対立回避のプラグマティズムとも解釈できる。だが、いつまでも学習期政党ではいられない。新自由主義に対抗して、どのようなオルタナティブを打ち立てるのが問題である。

## 新たな転機としての2017年選挙

2017年連邦議会選挙の最大の衝撃は、ドイツのための選択枝(AfD)が12.6%の得票で連邦議会入りし(第三党)、六党制時代が幕を開けたことである。欧州懐疑主義や排外主義の高まりの中、極右政党は欧州各国でかなりの支持を集めていたが、その波がついにドイツにも及んだ。第四次メルケル政権(大連立)が組閣に半年を要するという異例の事態も、それと無関係でない。

すべての既成政党はAfDとの協力を拒んでいる。政権オプションとして浮上したジャマイカ連立は、排除された党(左翼党とAfD)と責任放棄した党(社会民主党)以外の残余の連立構想ともいえる。抗議政党を通じてしか代弁されない有権者の声は、聞き届けられない。代議制民主主義が暗礁に乗り上げたかのような閉塞感が漂う。

このような中で左翼党は、既成政党を批判しつつ、右翼ポピュリズムにも対峙していかなければならない。

## 右と左のポピュリズム

ある論者はいう。「ポピュリズムとは、ある特定の政治の道徳主義的な想像であり、道徳的に純粋で完全に統一された人民と、腐敗しているか、何らかのかたちで道徳的に劣っているとされたエリートとを対置するように政治世界を認識する方法である。ポピュリストと認定するためには、エリート批判は必要条件ではあるが十分条件ではない。反エリート主義であることに加えて、ポピュリストはつねに反多元主義者である。つまり、ポピュリストは、自分たちが、それも自分たちだけが、人民を代表すると主張する」(ミュラー 2017: 27)。

政治学的な定義が容易でないポピュリズムは、

非難言葉として使われることも多い。だが、大衆の非合理性を強調したがる保守派の論客ならいざ知らず、人民の意思は政治的正統性の源泉である。ポピュリストのレッテルを貼られた者の中には、人民に奉仕するのがポピュリズムなら、自分はまさにポピュリストだと反論する者もいる。

排外主義言説ばかりがポピュリズムではない。グローバル資本主義の下で民衆は諸権利を奪われていること、それを意に介さぬエリートへの正当な異議申し立てが、部分的には右翼ポピュリズムと似たかたちで表出する。これを左翼ポピュリズムと呼ぶなら、近年の先進社会で起こっている、政治的左翼空間の再編成を読み解く手がかりになる。

ユーロ危機の震源地ギリシアでは、EUやIMFが求める緊縮財政への反発から急進左派連合(シリザ)が急伸し、ツイプラスが首相になった(2015年～)。欧州議会の左翼会派EUL/NGLに属する政党では、他に、スペインのポデモスも有名である。また、イギリス労働党では、2015年以来左派のコービンが党首を務めた(小選挙区制の下では、批判勢力は、新党結成よりも党内分派活動を通じて影響力拡大を狙う傾向がある)。

「われわれ」と「彼ら」の二元論をベースに、右翼ポピュリズムは社会文化的な権威主義・排外主義の立場から、左翼ポピュリズムは経済格差是正の立場から「われわれ」の外延を定義する、との言い方はいちおう可能である。稗田(2019)は、有権者個人の特性に注目した西欧12カ国の調査データを解析し、右翼ポピュリスト政党がブルーカラー労働者など職業階層ヒエラルキーの低位層から、左翼ポピュリスト政党が社会文化専門職や対人関係職に従事する階層から支持を集めていることを確認する。

このような知見は、ドイツ左翼党(ポピュリズムか否かは意見が分かれる)にとっての形勢の悪さを示唆していないか。個人的自由主義志向の高位の職業階層とは、緑の党の支持基盤である。格差是正(再分配)に肯定的なブルーカラー労働者層では、むしろ移民問題のような社会的メンバーシップの 이슈の顕示性が高いとされる。旧東ドイツや伝統的工

業地帯を抱える地域（ノルトライン＝ヴェストファーレン州など）では、左翼党はAfDと競合関係にある。

シュレーダー政権以来の社会民主主義政党の新自由主義化や緑の党の体制内化が、抗議政党としての左翼党を利する条件だった。今後の左翼党の展望は、いい意味で左翼ポピュリスト政党としての理論的貢献をなし得るか否かに左右されよう。

## 左翼空間再編成の困難な課題

2015年7月5日の国民投票で、ギリシアは、経済援助と引き換えにEUが求める緊縮財政に「ノー」の意思表示をした。だが、ツィプラスが交渉から持ち帰ったのは、拒否したはずの緊縮財政案だった。これは裏切りだろうか。哲学者のジジエクはいう。

「シリザ政府の裏切りに対する糾弾は、以下のよ  
うな大きな真の問題を避けるための方便である。  
われわれは今日の形態の資本に対してどのように  
立ち向かうことができるのか。われわれはどうすれ  
ば「人民とともに」統治を、国家の運営をすること  
ができるのか。シリザはたんなる政権与党ではなく人  
民の動員と社会運動に根ざしている、というのはあ  
まりに単純な話である」(ジジエク 2018: 132)。

左翼ポピュリズムに一縷の希望を託すとしても、  
現状打破の道りは険しい。示唆に富むジジエク  
の議論は、タイトルが示すようにアイロニカルであ  
る。最も厳しく問われねばならないのは、うわべだ  
けの政治的公正を振りかざしつつ「従来どおりの  
やり方を続ける」というEUの夢」的メンタリティに、  
左派の知識人が無批判になる危険性ではなかる  
うか。■

## 《注》

- 1 左派党と表記されることもある。訳語に関しては、木戸（2015）の考察も参照。
- 2 メルケル政権は、4回中3回が大連立（キリスト教民主社会同盟＋社会民主党）である。
- 3 キリスト教民主同盟、自由民主党、緑の党の連立。3党のシンボルカラー（黒、黄、緑）がジャマイカ国旗を連想させるため、このように呼ばれる。
- 4 Messinger & Rugenstein（2009）に依拠した。星乃（2014）は2013年時点での党内潮流を6つに整理する（176～179頁）。小野（2014）も参照。
- 5 本稿が依拠したのはLINKE（2012）。星乃（2014）第2部第2章の綱領解説も参照。
- 6 原語はlernende Partei。今にして思えばかなり大胆な意識である。

## 《参考文献》

- LINKE（2012）*Programm der Partei DIE LINKE*.  
（左翼党ウェブサイト <https://www.die-linke.de/> よりダウンロード可）
- Messinger, S., and Rugenstein, J. (2009) 'Der Erfolg der Partei die LINKE: Sammlung im programmatischen Nebel'. in: F. Butzlaff, S. Harm and F. Walter (eds.), *Patt oder Gezeitenwechsel? Deutschland 2009*. Wiesbaden: VS Verlag, pp.67-93.
- 小野一（2014）「左翼党」西田慎／近藤正基編『現代ドイツ政治／統一後の20年』ミネルヴァ書房、第4章、110-129頁。
- 小野一（2015）「2000年代ドイツにおける政党政治再編成」『日本比較政治学会年報』第17号、101-126頁。
- 木戸衛一（2015）『変容するドイツ政治社会と左翼党／反貧困・反戦』耕文社。
- ジジエク、スラヴォイ（2018）『絶望する勇気／グローバル資本主義・原理主義・ポピュリズム』中山徹・鈴木英明訳、青土社。
- 稗田健志（2019）「西欧諸国におけるポピュリスト政党支持の職業階層的基盤」日本政治学会編『年報政治学』2019-II、109-142頁。
- 星乃治彦（2014）『台頭するドイツ左翼／共同と自己変革の力で』かもがわ出版。
- ミュラー、ヤン＝ヴェルナー（2017）『ポピュリズムとは何か』板橋拓己訳、岩波書店。

